

うじいえ 自然に親しむ会だより

第8号

平成19年3月1日

編集・発行

うじいえ 自然に親しむ会事務局

さくら市ミュージアム

—荒井寛方記念館—内

活動の記録から

会長 加藤 啓三

- 10月12日（木）保護地区の立て看板設置
国土交通省の河川敷利用許可を受け、シルビアシジミ保護区に「立て看板」を4基設置しました。
- 10月13日（金）宇都宮の文化財保護団体来訪
4団体がさくら市ミュージアムへ研修のため来訪しました。本会は、鬼怒川河川敷でのシルビアシジミ保護活動について説明をしました。参加者は、ミヤコグサやカワラナデシコの花々を見て歓声を上げていました。
- 10月15日（日）カワラノギク観察会と芋煮会
内容については、5ページを参照して下さい。
- 11月19日（日）勝山探鳥会
日本野鳥の会栃木県支部と共催。寒い日でしたが、30名の参加者があり、シメ、ベニマシコ、ウソなどの他、オオハクチョウ一家の移動が観察できました。
- 11月25日（土）エノキの根元囲い
国蝶のオオムラサキやゴマダラチョウの幼虫を保護するために、エノキの根元にゴルフネットを巡らし、エノキの落葉が北風で飛ばされないように囲いました。
- 12月5日（火）樹木に木札付け
昨年につき、総合運動公園（桜野）の樹木35本に樹木名を記した木札を付けました。今年5月12日（土）、栃木県植樹祭の会場となる所です。作業は役員4名が参加し、約1時間30分かかりました。
- 12月9日（土）渡良瀬シンポジウムへ参加
日本野鳥の会栃木県支部主催の会が小山市文化会館で開催されました。渡良瀬遊水地をラムサール条約登録へ運動しようという呼びかけの学習会でした。
- 1月20日（土）全国ギフチョウシンポジウムへ参加
岐阜県岐阜市文化センターにおいて、日本チョウ類保全協会主催の会に参加しました。



○ 1月21日（日）勝山探鳥会

日本野鳥の会栃木県支部と共催。当日は、風のない暖かな日で40名の参加がありました。ヒガラから始まってシメ、ヤマガラ、ビンズイ、ミヤマホオジロなど40種類の観察ができました。

特に、ミヤマホオジロの雄の頭部の鮮やかな黄色が印象に残った探鳥会でした。

○ 2月10日（土）シルビアシジミ保全活動を小田原市で発表

日本チョウ類保全協会主催の「第3回チョウ類の保全を考える集い」が、小田原の「神奈川県立生命の星・地球博物館」で開催されました。その中でチョウ類保全団体の活動紹介があり、「うじいえ自然に親しむ会」の活動を発表しました。

さくら市より持参した、原色のまま標本にしたサヤ（種）付きのミヤコグサやシナダレスズメガヤの実物、シナダレスズメガヤ駆除に効果を上げた道具ピックマトックの展示も参加者の皆さんに好評でした。

パンフレットできる

「うじいえ 自然に親しむ会」の顔となるパンフレットが昨年（平成18）の8月にできました。副会長の松田さんが一人で作成したものです。

すでに皆さんの手元に届き、ほとんどの方は目を通されたことと思います。従いまして、改めて説明の必要もないかと思いましたが、しかし、専門の業者が作ったものと言っても十分に通用する見事な出来栄です。そのことに驚き、少し説明じみたことを書かせていただきます。

松田さんにつきましては、すでに「自然に親しむ会だより」（6号）でプロフィールの一端が紹介されています。しかし、あえて付け加えさせていただきます。まず、写真に関する知識や腕前はプロ級です。また、昆虫、野鳥、野草についての研究や知識は、すごく高いレベルにあります。こういう方の手によるパンフレットです。見事なのは、当たり前なのかしれません。

鬼怒川（主に、氏家地区）の河原に生息している絶滅危惧種かそれに近い野草や昆虫に焦点を絞り、きれいな写真と分かりやすい解説文で仕上げたパンフレットは、私たちの会の顔になってくれるものと期待しています。

（副会長 田代英夫）



写真講座2 植物写真入門 一花を撮る一

松田 喬

デジカメは登場してから十数年しか経っていないのに、高性能のズームレンズを組み込み、露出も正確で、手ブレ防止まで付いています。接写しやすいものが多いので花の写真を撮るのには最適といえます。しかし、自分の好みの写真を撮るには、それなりのコツも必要です。

どんなデジカメを選ぶとよいか

デジカメのカタログを見ると、「1cmまで接写可能」などと接写性能の高さを謳うものが目を付きますが、この接写性能も広角側だけで、望遠側ではあまり接写できない場合が多いようです。できれば望遠側でも接写できるものが好都合です。また、思ったところにピントがあってくれないことが多いので、マニュアルフォーカスも可能な機種が適しています。

ホワイトバランス

植物の撮影、特に花を撮影する場合には、色の再現性が問題になります。デジカメの機種によって、色の再現性には違いがあります。また、青・赤紫・紫は再現しにくい色で、私自身も未だに納得できるカメラに出会っていません。

人の目では、光源の種類が変わっても同じ色彩は、ほぼ同じに感じるように自動調整されています。しかし、カメラの場合は同じ色彩でも光源の種類によって赤みを帯びたり、青みを帯びたりと色彩が微妙に変わってしまいます。光源の種類が変わっても同じ白色として写るように調整するのがホワイトバランスです。デジカメでは、自動、あるいは手動でホワイトバランスが設定できます。その基準になるのは太陽光の白色(色温度 5,200K)です。

焦点距離・絞りと被写界深度

露出量は、シャッタースピード、絞り、ISO 感度で決まります。フィルムの場合、ISO 感度はフィルムの種類によって決まりますが、デジカメでは一定の範囲で調節可能です。しかし、感度を上げるとノイズが増えるので、ISO400 以下が無難です。

シャッタースピードが遅いと手ブレ、被写体ブレの原因になります。できるだけ速いシャッタースピードが望ましいのですが、花を撮る場合には接写することが多いのであまり速いシャッターは切れません。こうしたときは手ブレ防止機能が有効になります。

ピントの合っている範囲(奥行き)を被写界深度といいます。被写界深度は、焦点距離が短い広角レンズほど深く、焦点距離の長い望遠レンズほど浅くなります。また、同じ焦点距離であれば、絞りが小さいほど浅く、大きくするほど深くなります。さらに、接写でレンズを繰り出すほど被写界深度は浅くなり、また像は暗くなります。

手動でのピント合わせ

手動でピントを合わせるときのコツは、ピントリングで調整するのではなく、オートフォーカスでおおよその構図を決めたら手動に切り替えて、体(カメラ)を前後に動かしてピントのあった瞬間にシャッターを切ります。この方がピントの山がつかみやすくなります。

背景の省略

撮影したい花だけを目立たせたいときには、絞りを開放あるいは、開放に近い小さな絞りを使います。背景がぼけて、花だけが浮かび上がり、周囲のボケもきれいになります。この効果は望遠レンズほど大きく、広角レンズではうまくぼけてくれません。また、絞り込んでしまうとボケ方が小さくなるばかりでなく、ボケが汚くなります。

コンパクトデジカメは、レンズの焦点距離が短く、フィルムカメラであれば超超広角とも言えるようなレンズを使っています。このために、開放にしてもほとんどボけてくれないことがあります。こんなときは、アングルを低くして被写体を空に抜くとよいでしょう。

広角を生かそう

広角レンズを使うと、その植物が生育する周囲の環境も写り、奥行きのある表現ができます。この場合、被写体に思い切って近づかないと風景に花が埋もれてしまいます。最も広角側で最短撮影距離付近で撮るのがコツです。

逆光を生かそう

傑作は逆光で撮影されたものに多いといわれます。順光に比べて失敗も多いのですが、逆光を生かすと、花びらに透明感を与えたり、毛や葉脈を浮かび上がらせたりと表現が広がります。

自然光で写そう

私は昆虫を撮影するときは、ほとんどストロボを使いますが、花を撮るときは使いません。花の微妙な色が損なわれたり、堅い表現になってしまうからです。また、快晴より薄曇りの方が撮影には、向いていると思います。晴天の昼間は、コントラストが強く、影がどぎつくなってしまうからです。こうしたときに、半透明の白いビニール傘を用意しておく強い日差しを柔らかな光に変えられるので便利です。

作例1



背景の省略(ツククサ)

Coolpix990 15.3mm F3.2 1/250 ISO100



空に抜く(ミズキ)

EOS10D 100mm F8 1/400 ISO100



広角を生かそう
(ヤマブキソウ)

E500 23mm F5.6

1/125 ISO400



逆光を生かそう

Coolpix990 16.5mm F5.8 1/145 ISO100

カワラノギク観察会

10月15日(日)、午前10時から、鬼怒川の氏家大橋上流の東京大学実験地で、「カワラノギク観察会」を開きました。

カワラノギクは国土交通省下館河川事務所と東京大学保全生態学研究室、本会が連携して播種するなど、在来種の保全活動に当たってきました。2005年(平成17)の秋は10万株が開花しました。本年も可憐な淡い紫の花を見事に咲かせ、一同感激しました。カワラノギクは礫(れき)質河原にしか生育できない絶滅危惧種(I類)です。

また、河原に繁茂する外来種「シナダレスズメガヤ」の除去活動も実施しました。

当日は、東京大学から鷺谷いづみ教授、同大学院生、さくら市ガールスカウト、家族連れ、本会員など約80名が参加しました。

終了後さくら市ミュージアム 一荒井寛方記念館一 に隣接する「みんなのひろば」(民家広場)で、「芋煮会」を実施。里芋や牛肉・きのこ・ねぎなど、秋の味覚がたっぷり入った味噌仕立ての温かい芋煮汁を味わいました。(庶務 佃 清司)



シルビアシジミの保護監視活動を振り返って

私の住まいは氏家大橋と国土交通省氏家出張所のほぼ中間にある。自宅から林を抜けて50メートルも行けば鬼怒川の堤防だ。ほとんど毎日というくらい堤防に登っては、河原を見下ろしたり、羽黒・男体・高原の山々を眺めている。そんな点も加味したのだろう。加藤会長から「無理のない範囲で」とパトロール協力の依頼があった。お引き受けしたのは7月のことであった。

そもそも私がシルビアシジミの存在を知ったのは神奈川からやってきたという蝶愛好家からで、この堤防の上でのことだった。今、シルビアシジミはさくら市の天然記念物に指定され、食草の管理地づくり、増殖、さらには保護とPRを兼ねた看板の設置などが行なわれてきたのはご存知の通りである。その延長として監視活動が平成18年度から始められたのも当然といえば当然のことだろう。

パトロールは土曜日・日曜日で一日一時間ほど。「昆虫愛好家の多くは、休日を利用してやってくる。」と見込んでのことである。私はさらにあまり早い時間帯や夕方に来ないだろうと思い、パトロールは昼前から昼過ぎにすることにした。下流はゆうゆうパークまで、上流は氏家大橋上の鬼怒川公園まで、これを自転車でゆっくり往復する。

パトロールを始めてその推測は間違っていないことが分かった。群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川、同じ関東地方とはいえ、はるばる車を飛ばしてこの鬼怒川の堤にやってくる。蝶に関しては全くの素人の私だが、7月・8月は愛好家の活動が特に活発なようで、ほとんど毎回補虫網を持った人たちに出会った。これだけ多くの人に注目されているにはパトロールもおそろかにできない。放って置いては絶滅しかねないと愛好家の熱の入れように驚かされた。

「この場所については仲間から聞いた。」とか「インターネットで知った。」「標本の売買の書き込みもありますよ。」という話まで教えられ、その加熱ぶりにビックリした。中でも記憶に残っているのは「団塊の世代の大量定年者の一人です。中学・高校以来の趣味を再開したんです。」という人だ。ようやく時間ができて、長年の夢を、それも遠くから、このさくら市の鬼怒川堤までやってきたのに……。そう思うと私の胸のうちは複雑になる。市の天然記念物で捕獲は遠慮してもらっているんです。私たちが禁止・禁止だけ声高に叫んでいるわけではありません。食草の種まき、シナダレスズメガヤの除去など保護増殖のための環境作りにも努力しています。将来、シルビアシジミがあたり前のように飛び交って、愛好家が捕獲する分くらい心配なし、というようになればと思っています。ご理解をお願いします。私は今年もそう言って、私たちのホームページアドレスカードを手渡したいと思う。

(理事 佐藤 裕)



渡辺 剛(つよし)さん

昭和34年、西那須野町（現那須塩原市）永田町に生まれました。8年前に結婚し現在は、さくら市喜連川に在住。子ども2人を含む6人家族。教員から県立博物館、私企業での環境アセスメント業務を経て、那須野が原博物館に開館から勤務しています。

昨年11月18日から今年2月4日まで、渡辺さんが集めたチョウの標本3,200点が那須野が原博物館で展示されました。下野新聞18年11月18日（土）で紹介されました。

渡辺さんとチョウとの出会いは、小学生の時だそうです。当時、小学校の教員をしていた父親が教材用にと作製したベニシジミの標本を見て、その美しさに感動したことから始まります。それから30年かけて採集した標本を今回公開したことになります。

渡辺さんは、「生きているチョウの素晴らしさは格別だが、標本にもまた違ったものを感じてしまった。」と言います。中学校3年生の時に、大田原市の増淵余一先生をはじめ「昆虫愛好会」の方々と接する機会があり、様々な教えをいただき現在に至っているそうです。この間に、収集した珍しいものとして、県内で初めて採集したオオモンシロチョウや塩原で採集したクロコムラサキ、絶滅したのではないかと危惧されているヒメシロチョウなどがあります。

今後の抱負としては、那須野が原のチョウと自然についてのガイドブックを出版したいそうです。また、さくら市の昆虫相についても可能な限り調べて、こちらも出版物の形で残せればと考えているそうです。さらに、「標本は、今現在の姿を後世に残すことができる貴重な学術資料ですから、今後とも多数残していきたい。」と言っています。展示会が終わったばかりの2月13日、渡辺さんにお会いしてきました。

(加藤啓三)



- ◆ 3月18日（日）勝山探鳥会 9時～12時
さくら市ミュージアム玄関前集合。保険料として100円必要です。
- ◆ 4月7日（土）草川清掃 9時～11時
夢の架け橋下の広場集合

- ◆ 4月21日（土）シナダレスズメガヤ駆除とカワラノギク種まき
10時～12時 氏家病院西側の鬼怒川河川敷東京大学実験サイト

- ◆ 4月28日（土）ヤマブキソウ観察会 9時～
喜連川お丸山公園下の駐車場集合。講師：田代俊夫先生

- ◆ 5月12日（土）栃木県植樹祭 総合運動公園（桜野）

- ◆ 6月3日（日）自然観察会 10時～11時30分
さくら市ミュージアム玄関前集合
定期総会 13時 ミュージアム講座室
記念講演 13時30分
講師：元東京大学保全生態学研究室 村中孝司先生
演題（仮題）鬼怒川河川敷の植物



平成18年度会費納入のお願い

今年度会費未納の方は、至急、納入をお願いいたします。納入先は、事務局さくら市ミュージアムまたは加藤啓三会長までお願いします。

なお、郵便局で郵便小為替にすると1,000円に付き、10円の手数料になります。